

たばこに関する2つの意見書の経過説明（報告）

日本口腔衛生学会
理事長 中垣晴男

日本口腔衛生学会は、すでに一部の新聞、雑誌等で報道されたように、本学会禁煙推進委員会が起案した2つの意見書を財務省に提出しました。そこで会員の皆様に、資料を除いて、その経緯を説明する書類全文を掲載し報告申し上げます。今後も学会として、禁煙推進をすすめていきますので、よろしくご協力、ご理解お願い申し上げます。

1. 財務省たばこ事業部会「注意文言の見直しに関するワーキンググループ」への意見・提言

WHOで採択されたたばこ規制枠組み条約に規定されているたばこ箱警告表示に関する合意への日本政府の対応として、財務省の財政制度等審議会が諮問するたばこ事業部会では、「注意文言」の見直しに関する検討会に作業部会を設置した。昨年2月、作業部会に招聘された喫煙と健康問題に詳しい五島雄一郎東海大学名誉教授・日本禁煙推進医師歯科医師連盟会長(故人、当時)から、学会等から禁煙宣言などの組織決定を踏まえて意見・提言を求められた。本学会は、たばこ箱警告表示見直しに関して意見・提言を行う責務があると考え、厚生科学審議会の「今後のたばこ対策の基本的考え方について」の意見具申の趣旨を踏まえて、以下の意見・提言を行った。

平成15年3月19日

財務省たばこ事業部会

注意文言の見直しに関するワーキンググループ 御中

財務省たばこ事業部会「注意文言の見直しに関するワーキンググループ」への意見・提言

日本口腔衛生学会

日本口腔衛生学会は、財務省たばこ事業部会に設置された「注意文言の見直しに関するワーキンググループ」に対して、喫煙の口腔への健康影響に関して、下記のように意見ならびに提言をいたします。

記

(1) 日本口腔衛生学会禁煙宣言

日本口腔衛生学会は、平成14年9月13日禁煙宣言を採択し、「たばこのない世界」を目指して、積極的に喫煙対策を推進することを宣言しました【資料1】。

(2) 喫煙の口腔の健康への影響と科学的根拠

喫煙の口腔への影響については、科学的根拠が十分に蓄積され、国内外において多数の文献レビューが行われています【資料2】。これらの文献から、特にたばこ箱警告表示に関わるものとして、以下の疾患および症状等が挙げられます。

- ① 口腔がん、口腔粘膜疾患：口腔がんおよびその前癌病変である白板症との関連性が十分な科学的根拠により示されています。平成11年の口唇・口腔がんの死亡総数は4846名、年齢調整死亡率(10万人対)は男性4.4、女性1.2で、全悪性新生物死亡の2.0% (男性) 1.1% (女性) を占めています。男性の死亡率は年々増加しており、男性の口唇・口腔がん死亡の喫煙のオッズ比は4.6となっています。
- ② 歯周病：喫煙と歯周病の関連性は、最近10年間に、十分な科学的根拠が蓄積されました。また、喫煙と歯周病の因果関係があることが、喫煙と肺がんの関連性を追究する方法(米国公衆衛生局長諮問委員会の基準にHillが追加した8つの条件)と同様の方法で十分に検証が行われました。
- ③ 歯肉メラニン色素沈着症、口臭症、歯の着色など：他人の目に見えたり、あるいは、他人に不快感を与えたりするおそれのある症状との関連が十分な科学研究により示されています。このような社交面に関わる口腔影響は、未成年者の喫煙の防止のメッセージとして有用性が高いことが示唆されています。
- ④ 歯の喪失：喫煙は、歯の喪失と関連があることが示されています。わが国においても、8020 データバンク調

査において高齢者の歯の喪失との関連性が示されました。歯の喪失は、咀嚼機能の低下に直結することから、高齢者のQOL低下にも影響を及ぼすものと考えられます。

- ⑤ 歯科の治療効果の低下：喫煙者は、歯周病、インプラント、抜歯の治療効果が低いことや歯周病の再発が高いことが、十分な科学的根拠により示されています。

(3) 喫煙と歯周病の関連についての国民の知識

平成10年度に行われた全国調査「喫煙と健康問題に関する実態調査」報告では、「喫煙で病気にかかりやすくなると思う」人の割合が集計され、歯周病と回答した人は27.3%であり、肺がん、ぜんそく、気管支炎、心臓病、脳卒中、胃かいよう、妊娠への影響の8つの選択肢の中では、最も低い値でした。歯周病との関連知識が少ないことが判明しました。

(4) 口腔への喫煙の影響が未成年者の喫煙意識に及ぼす影響

未成年の喫煙行動についての多くの研究から、未成年者に対する防煙教育は小学校の学童期から始めることが望ましく、平成15年度の小学校新学習指導要領では、小学校5・6学年における防煙のための保健学習教育の中に含まれています。学童期は、歯の交換期であることから、口腔への関心が高まっている時期でもあります。そこで、学校の防煙教育の学習教材として、喫煙の口腔への影響をカラー写真で紹介したポスターが製作されています【資料3】。未成年者の喫煙防止には、遠い将来の健康影響を見せるよりも、身近で非社会的な影響を示した方が効果的であるとの指摘があります【資料4】。

カナダでは、画像によるたばこ箱の警告表示【資料5】が採用され、採用されなかった隣国の米国を対照として、たばこ箱の画像警告表示の効果を比較する追跡研究が行われました。その結果、口腔と肺の写真のたばこ箱が、高校生の喫煙開始と禁煙の意識の改善に効果的であることが示されました。このことは、たばこ箱に示された口腔の写真が、未成年者の喫煙開始と禁煙の意識に影響を及ぼすことを示しています【資料6】。

(5) たばこ箱における喫煙の口腔影響の表示の役割

以上のことを勘案した結果、日本口腔衛生学会は、以下の提言を行います。

- ① 喫煙を開始する者に対して歯周病を含む喫煙の口腔への影響に関する情報提供：喫煙が口腔の健康に及ぼす影響の科学的根拠は十分であり、特に、口腔がん、歯周病との因果関係について明らかにされています。また、歯周治療等の歯科の治療効果も喫煙者では非喫煙者に比して劣ることが示されています。一方、喫煙の歯周病への影響に関する国民の知識が不足していることから、たばこ箱への警告表示として、口腔の影響を記載し、情報提供することは非常に重要であると考えます。
- ② 未成年者の喫煙防止および未成年喫煙者の禁煙のための画像警告表示：喫煙が口腔の健康に及ぼす影響のうち、歯肉や歯の着色、歯の喪失といった、口腔が見える器官であるという特徴を活かした教材が、わが国の学校教育に取り入れられています。そして、タバコ箱に口腔の画像表示を採用することが、未成年者の喫煙の開始と禁煙の意識に影響を及ぼすことが示されています。したがって、たばこ箱への警告表示を、口腔写真等の画像を用いて行うことは、わが国の未成年者の喫煙率の低下に貢献すると考えられます。

以上のように、「口腔の健康への喫煙の影響」に関しての国民の知識はまだ低く、また、未成年者が、「社交面に関わる口腔症状への喫煙の影響」に対して敏感であることから、日本口腔衛生学会は、喫煙を始める者への情報提供および未成年者の喫煙率の低下、ひいては、たばこ消費の低減を目的として、たばこ箱に喫煙の口腔への影響を、文字および画像で示し、警告が行われるよう提言いたします。

以上

【資料】1. 日本口腔衛生学界禁煙宣言 2. 喫煙の口腔への健康影響に関する主要文献(レビュー)37編 3. 健康ふしぎ発見ニュース10月号 監修 森 昭三 平成8年10月 4. たばこ箱画像警告表示の心理学的意義に関する研究 5. カナダのたばこ箱画像警告表示に採用された口腔の画像 6. 画像警告表示が高校生喫煙者の禁煙意識に及ぼした影響

2. 「たばこ事業法施行規則の一部を改正する省令（案）」に対する意見ならびにガムタバコに関する緊急意見

昨年10月、財務省は「たばこ事業法施行規則の一部を改正する省令（案）」に対する意見（パブリックコメント）募集を行った。WHOが採択したたばこ規制枠組み条約の批准に向けて、国内法の整備の一環として行われている作業のひとつとして、たばこ箱警告表示に対応するための注意表示改正についての意見募集だった。本学会は、先の意見・提言の趣旨を踏まえて意見の取りまとめを図るとともに、スウェーデン製のガムタバコ（噛みたばこのひとつと財務省は位置づけている）の試験販売が首都圏で開始され、スモークレスタバコの消費拡大による口腔がんの増加が懸念されたことから、禁煙宣言を発した日本口腔外科学会に働きかけ、2学会連名でガムタバコに関する緊急意見とともにパブリックコメントを提出した。

平成15年11月5日

財務省理財局総務課たばこ塩事業室
パブリックコメント担当 御中

社団法人 日本口腔外科学会

理事長 瀬戸皖一

日本口腔衛生学会

理事長 中垣晴男

「たばこ事業法施行規則の一部を改正する省令（案）」に対する意見募集について

社団法人日本口腔外科学会ならびに日本口腔衛生学会（以下両学会という）は、標記の件について意見を具申いたします。さらに最近、「ガムタバコ」が一部の地域で発売されており、これは、省令改正後「かみタバコ」として分類されるものと考えられますが、チューインガムと形状が酷似しており甘味料を含んでいることから、間違っ

て子供が使用することも充分予測され、意見募集に関連して緊急の意見を表明いたします。さて、「たばこ事業法施行規則の一部を改正する省令（案）」によりますと、第36条において、製造タバコに定めるものとして、新たに「かみタバコ」と「かぎタバコ」が追加されております。「かみタバコ」は、日本では現在のところあまり消費されていないと思われませんが、世界各国ではスモークレスタバコとして長年使用されており、使用者の口腔の疾患、特に、口腔がんや口腔粘膜疾患の発症リスクを高めるプロモーターと考えられており、発症によってQOLの著しい低下を招くことが少なくありません。両学会は、国民の口腔の健康増進に寄与することを目的としております。その立場から今後、以下の理由により、「かみタバコ」の使用がわが国にも拡大し、口腔の健康に大きな悪影響を及ぼすことを危惧するものであります。

1. スモークレスタバコの健康影響

- (1) 発癌物質を含んでおり口腔がん、および口腔粘膜疾患のリスクを増大させることが多くの文献で実証されています。
- (2) 依存性があるとされているニコチンを含んでおり、未成年のタバコ依存の開始の機会を増大させます。
- (3) 禁煙希望者の禁煙を妨げ、また、禁煙の開始を遅延させるおそれがあります。

2. 喫煙場所制限による使用拡大の加速

わが国では、タバコの煙による非喫煙者の健康被害を防止するために健康増進法が施行され、駅構内の全面禁煙、歩行喫煙の禁止条例の施行など、公共の場における喫煙が大幅に制限されることとなりました。このような時期に発売されるスモークレスタバコは、

- (1) 煙が出ないので健康に支障がないという錯覚を、喫煙成人に与え易い状況にあります。
- (2) 煙が出ないため周囲からタバコ使用が見えないので、喫煙未成年者がタバコ使用をさらに継続する恐れがあります。

以上のことから両学会は、たばこ事業法施行規則の一部を改正する省令（案）に「かみたばこ」等が追記されることに際し、早急に「かみタバコ」等への警告表示として、

1. 煙の出るタバコより安全であるという誤解を与えない
2. 禁煙補助のためには使用しない等、煙の出るタバコとは違った特別の注意をお願いするものです。

ガムタバコに関する緊急意見

本年10月、ファイアーブレイクというスモークレスタバコ(ガムタバコ)が小田急沿線にて、発売されました。このタバコ製品は、保健機能食品であるキシリトールガムの関与成分キシリトールを含み、ガムをベースに用いていることから、かみタバコに分類されてはいるものの、新しいタイプの製品と認識されます。

本製品は、

- (1) 煙が出ないので健康に安全だという錯覚を、喫煙成人に与え易い状況にあります。(再掲)
- (2) キシリトールを含んでいるため、口腔の健康によい安全な製品であると誤解されることが考えられます。
- (3) 煙が出ないため周囲からタバコの使用が見えないので、喫煙未成年者がタバコ使用をさらに継続する恐れがあります。(再掲)
- (4) 市販され子供になじみのあるチューインガムと酷似した剤形であるため、一旦包装から出されたものを未成年者が誤って使用する恐れがあります。

以上のことから本製品については、さらに嚴重に警告されるか、あるいは、発売許可を取り消されることを強く要望するものです。

以上